

第2章 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

(1) 河川環境区分

六角川水系は、流域中央の丘陵性山地により六角川本川と支川牛津川に二分される。

六角川本川の環境区分については、地形、支川合流、河川特性等を踏まえ、源流から大日井堰までの淡水域を六角川中・上流部、大日井堰から六角川河口堰までの汽水域を六角川下流部、牛津川合流後の六角川河口堰より下流を六角川河口域とした。

支川牛津川の環境区分についても同様に、源流から中^{なかどおり}通川合流点までの淡水域を牛津川上流部、中通川合流点から古賀橋下流までの淡水域を牛津川中流部、古賀橋下流から六角川への合流点までの汽水域を牛津川下流部とした。

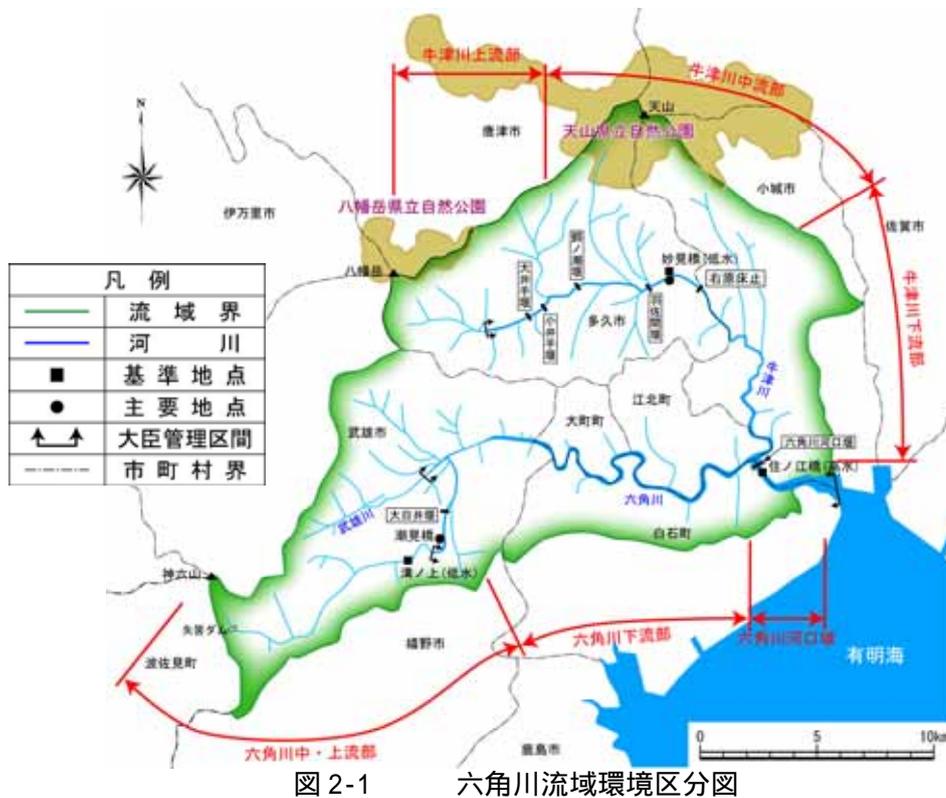


図 2-1 六角川流域環境区分図

表 2-1 河川の区分と自然環境

区分	六角川中・上流部	六角川下流部	六角川河口域	牛津川上流部	牛津川中流部	牛津川下流部
区間	源流～大日井堰	大日井堰～六角川河口堰	六角川河口堰～河口	源流～中通川合流点	中通川合流点～古賀橋下流	古賀橋下流～合流点
地形	山地・平地	平地・低平地	低平地	山地・平地	平地	平地・低平地
特性	瀬・淵、湛水域、ダム湖	汽水域、干潟、江湖	河口干潟、汽水域	瀬・淵、河畔林	瀬・淵、湛水域	汽水域、干潟
河床材料	砂・礫、中礫	細砂・シルト	シルト	粗礫	粗礫	細砂・シルト
勾配	約1/60～1/1,030	1/1,530～1/45,000	1/45,000	1/240	1/480～1/620	1/2,600～1/5,600
植物相	ツルヨシ群落 オギ群落 タチヤナギ群落	ヨシ群落、オギ群落	シチメンソウ ヒロハマツナ ヨシ群落	ツルヨシ群落 ムクノキ・エノキ群落 アラカシ群落	ツルヨシ群落 オギ群落 タチヤナギ群落	ヨシ群落、オギ群落
動物相	オイカワ、カワムツ ヨシノボリ類、ギンブナ サギ類、カワラヒワ	エツ、ワラスボ ムツゴロウ ギンブナ、モツゴ ヤマノカミ カワバタモロコ カゼトゲタナゴ ハラグクレチゴガニ オオヨシキリ カヤネズミ	ムツゴロウ、ワラスボ ヤマノカミ シオマネキ、ゴカイ類 シギ・チドリ類、カモ類	オイカワ、カワムツ カマツカ、イトモロコ カゼトゲタナゴ サギ類、カワセミ	オイカワ、カワムツ ヌマチチブ カゼトゲタナゴ モクスガニ、スジエビ イソシギ、クサシギ	エツ、ワラスボ ムツゴロウ ギンブナ、モツゴ ヤマノカミ ハラグクレチゴガニ オオヨシキリ カヤネズミ

(2) 流域の自然環境

源流から大日井堰までの六角川中・上流部は、スギ・ヒノキからなる山林の中に矢筈ダムによる湛水域が形成され、ダム湖にはコイ、フナ類等の魚類が生息し、ヒドリガモが越冬のために飛来する。ダムより下流は、低山・丘陵地に挟まれた平地を流下し、瀬・淵や堰による湛水域が形成されている。瀬はオイカワやヨシノボリ類の産卵場となっており、淵や湛水域にカワムツやギンブナが生息している。河岸にはオギ群落等が群生し、一部の区間にはヤナギ林、竹林等の河畔林が形成され、サギ類等の採餌場、休息場となっている。

大日井堰から六角川河口堰までの六角川下流部は、白石平野を大きく蛇行しながら流下し、河口から約 29km にも及ぶ長い汽水域を有している。汽水域にはエツやワラスボ等の有明海特有の魚類とギンブナやモツゴ等の淡水魚が混在して生息し、独特の生態系を有している。水辺には連続して干潟、ヨシ原が形成され、干潟にはハラグクレチゴガニが生息し、ヨシ原はオオヨシキリの繁殖場、カヤネズミの生息場となっている。点在する江湖(えご)と言われる入江状の河川空間は、稚魚の成育場となるなど、六角川の多様性の一翼を担っている。

六角川河口堰より下流の六角川河口域は、有明海湾奥部特有の干満差が最大約 6 m にも及ぶ潮汐の影響を受け、広大な河口干潟が形成され、有明海と一体となっている。干潟には、ムツゴロウやシオマネキが生息しており、シギ・チドリ類やカモ類の渡り鳥の中継地、越冬地となっている。水際にはシチメンソウやヒロハマツナ等の塩生植物が生育し、その背後にヨシ原が形成されている。



六角川上流部：矢筈ダム付近



六角川中流部：上見橋(31.0km)付近



六角川下流部：JR 鉄道橋(13.5km)付近



六角川河口域：六角川河口

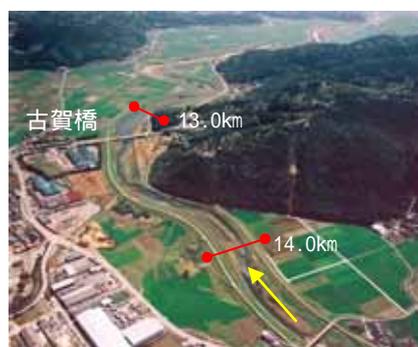
支川牛津川の源流部は、八幡岳県立自然公園、天山県立自然公園に指定され、豊かな自然環境を有している。

源流から古賀橋下流までの牛津川中・上流部は、山間地を流下し、瀬・淵やアラカシ・ムクノキ等のまとまった河畔林が分布し、変化に富んだ河川環境が形成されている。水辺にはツルヨシが繁茂し、瀬・淵が連続する流水区間には、オイカワ、カマツカ、カゼトゲタナゴ等の魚類が生息している。河岸には、タチヤナギ等の河畔林が点在し、水辺にはツルヨシが繁茂している。

古賀橋下流から六角川への合流点までの牛津川下流部は、低平な白石平野を蛇行しながら流下し、約 12km に及ぶ汽水域を有しており、六角川下流部と同様の自然環境及び生物相となっている。



牛津川上流部：多久橋(20.8km)付近



牛津川中流部：古賀橋(13.4km)付近



牛津川下流部：3.0km 付近

河口から沿岸部では、エツ等の有明海特有の魚類やヒイラギ等の海産魚の生息場となっている。また、六角川の汽水域はこれら海産魚の成育場としての役割を担っており、汽水域と有明海が連続性のある生物相を形成している。さらに、六角川河口を含む有明海は、「日本の重要湿地500」（環境省）に選定されている。

六角川流域は、流域面積の約4割を山地部が占めているが、そのほとんどがスギ・ヒノキ等常緑針葉樹植林とシイ林で占められ、それらの中に常緑果樹園が見られる。

流出土砂と有明海の潮汐により運搬されたガタ土を主とした沖積層からなる下流平地部は、水田が広がり目立った植生は見られず、水田雑草群落が占めている。



図 2-2 六角川流域植生図

2 - 2 河川及びその周辺の自然環境

2 - 2 - 1 河川の環境特性

(1) 六角川中・上流部【源流～大日井堰 29k000】

六角川中・上流部は、源流の山間地を流下したのち、低山・丘陵地に挟まれた平地を流下する。地質は、源流付近が多良山系に連なる第三紀洪積世の玄武岩、火山岩で構成され、低山部が安山岩を主とする火山岩類、丘陵地が段丘堆積物で構成されている。

上流のスギ・ヒノキからなる山林の中に矢筈ダムによる湛水域が形成され、ダムより下流の河道内では、瀬と淵が連続し、堰による湛水区間が点在する。川幅は10～60m程度で、高水敷はほとんどない単断面河道である。河床勾配は約1/60～1/1,030程度で、河床は砂、礫、中礫で構成されている。セグメントは2-2～1である。

瀬は、底生動物や付着藻類が生息・生育し、オイカワ、ヨシノボリ類等の採餌場、産卵場となっており、淵は、緩やかな流れを好むギンブナ、カワムツ等が生息している。水際にはツルヨシ等の抽水植物が生育し、水際の浅瀬はサギ類が採餌場として利用している。

高水敷にはオギ群落が、一部の堤防沿いにはタチヤナギ等の河畔林が繁茂し、サギ類、カワラヒワ等の採餌場、休息場となっている。



六角川上流（源流）部



六角川中流部の瀬と淵



ツルヨシ群落



タチヤナギ群集（低木林）



オイカワ（コイ目コイ科）



カワムツ（コイ目コイ科）



トウヨシノボリ（スズキ目ハゼ科）



ギンブナ（コイ目コイ科）



アオサギ（コウノトリ目サギ科）



カワラヒワ（スズメ目アトリ科）

(2) 六角川下流部【大日井堰 29k000～六角川河口堰 4k650】

六角川下流部は、低平な白石平野を大きく蛇行しながら緩やかに流下し、沿川にはクリーク網が広がっている。地質は、流出土砂と有明海の潮汐により運搬されたガタを主とした沖積層からなる軟弱地盤である。

河道内では、我が国最大の干満差を有する有明海の影響を受け、河口から約 29km にも及ぶ長い汽水域を有し、干潮時には泥干潟が出現する。川幅は 45～320m 程度で下流側ほど広く、高水敷は 10～20m 程度で狭い。河床勾配は 1/1,530～1/45,000 程度と緩やかで、河床は有明海特有のガタ土～細砂で構成されている。セグメントは 3～2-2 である。

汽水域には、エツ、ムツゴロウ、ワラスボ等有明海特有の魚類と、ギンブナ、モツゴ等の淡水魚が混在して生息している。干潟は潮汐の影響により干出と水没を定期的に繰り返す場所であり、表面には微小藻類が多いなど干潟の泥には微生物が多数生息しており、生物生産性の高い環境となっている。このような干潟には、付着藻類を餌とするハラグクレチゴガ二等の甲殻類、ムツゴロウ、ワラスボ等の魚類が生息している。

干潟背後には帯状にヨシ原が形成され、六角川を特徴づける河川景観を呈しており、オオヨシキリの繁殖場、カヤネズミの生息場等となっている。

六角川下流部には、江湖（えご）と呼ばれる入江状の河川空間が点在している。江湖には水路等から淡水が供給されることから、本流より塩分濃度が低い水域が形成され、コイ、フナ類等の淡水魚の生息場となっている。また、本流に比べ水深が浅く流れが緩やかであることから、稚魚の成育場として利用されるなど、六角川の多様性の一翼を担っている。



六角川下流部の干潟とヨシ原



六角川の蛇行と沿川のクリーク及び江湖



六角川 13k 付近の江湖



ヨシ群落



オギ群落



エツ (ニシン目カタクチイワシ科)



ハラグクレチゴガニ (エビ目スナガニ科)



オオヨシキリ
(スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科)



カヤネズミ (ネズミ目ネズミ科)

(3) 六角川河口域【六角川河口堰 4k650～河口 0k000】

六角川河口域は、古来からの低平な干拓地を流下し、最大約 6m にも及ぶ有明海の潮汐の影響を受けながら、有明海湾奥部に流入する。地質は、流出土砂と有明海の潮汐により運搬されたガタを主とした沖積層からなる軟弱地盤である。

河口から海域にかけては、有明海の潮汐の影響を受け、広大な河口干潟が形成されている。川幅は 200～570m 程度と広いが、高水敷はほとんどない。河床勾配は 1/45,000 程度と緩やかで、河床は有明海特有のガタ土で構成されている。セグメントは 3 である。

干潟には、付着藻類を餌とするゴカイ類、シオマネキ等の甲殻類、ムツゴロウ、ワラスボ等の魚類が生息している。さらに、底生動物等を餌とするハマシギやシロチドリ、マガモやオナガガモ等の渡り鳥の中継地、越冬地となっている。干潟背後の塩沼湿地には、シチメンソウ、ヒロハマツナ等の塩生植物が生育し、その背後にヨシ原が形成されている。河口から沿岸部では、エツ等の有明海特有の魚類やヒイラギ等の海産魚の生息場となっている。また、六角川の汽水域は、これら海産魚の成育場としての役割を担っており、汽水域と有明海が連続性のある生物相を形成している。

六角川河口は、環境省により「シギ・チドリ類渡来湿地目録」に登録され、有明海湾奥部の貴重な自然環境を有している。また、河口部一帯は、佐賀県により「ムツゴロウ・シオマネキ保護区」に指定され、これらの採捕を禁止し保護が行われている。



六角川河口域



六角川河口域のシチメンソウ群落と河口干潟



シチメンソウ



ヒロハマツナ



ムツゴロウ
(スズキ目ハゼ亜目ハゼ科)



ワラスボ (スズキ目ハゼ亜目ハゼ科)



シオマネキ (エビ目スナガニ科)



ハマシギ (チドリ目シギ科)



シロチドリ (チドリ目チドリ科)



オナガガモ (カモ目カモ科)

(4) 牛津川上流部【源流～中通川合流点 19k600】

牛津川上流部は、源流の山間地を抜けたのち山間の狭い平地を流下する。地質は、背振・天山山系の脆弱な中生代の花崗閃緑岩で構成されている。

河道内では、瀬・淵、河畔林等が見られ、六角川水系の中にあつては比較的多様な河川環境を有している。川幅は20～70m程度で、高水敷はあまり見られない。河床勾配は1/240程度と急勾配で、河床は粗礫で構成されている。セグメントは1である。

瀬は、底生動物や付着藻類が生息・生育し、オイカワ、カマツカ等の魚類の採餌場となっており、淵は、緩やかな流れを好むカワムツ、イトモロコ、カゼトゲタナゴ等の魚類が生息している。水際の浅瀬は、チュウサギ、ササゴイ等のサギ類が採餌場として利用している。

河川に沿って帯状に分布するムクノキ - エノキ群落は、サギ類等の繁殖場や休息場として利用されている。水際に生育するアラカシ等の河畔林は、木立がつくる木陰により水生生物の休息場として利用されるとともに、オイカワ、カマツカ等魚類の餌となる落ち葉や昆虫等を供給している。



牛津川上流部の河畔林
(ムクノキ - エノキ群落)



牛津川上流部の淵と山付き林 (アラカシ群落)



ムクノキ-エノキ群落



アラカシ群落



イトモロコ
(コイ目コイ科カマツカ亜科)



カゼトゲタナゴ(コイ目コイ科)



カマツカ(コイ目コイ科カマツカ亜科)



ササゴイ(コウノトリ目サギ科)

(5) 牛津川中流部【中通川合流点 19k600～古賀橋下流 12k200】

牛津川中流部は、低山・丘陵地に挟まれた平地を流下する。地質は、低山部が第三紀洪積世の風化の著しい玄武岩で構成され、丘陵地は洪積世の段丘堆積物で構成されている。

河道内では、緩やかな流れの中に瀬・淵、礫河原、河畔林等が形成され、多様な河川環境を有している。川幅は60～120m程度で、一部区間を除き高水敷はあまり見られない。河床勾配は1/480～1/620程度で、河床は粗礫で構成されている。セグメントは2-1である。

瀬は、底生動物や付着藻類が生息・生育し、オイカワ、ヌマチチブ等の採餌場となっており、淵は、緩やかな流れを好むカワムツ等の魚類が生息している。礫河原は、イソシギ、クサシギ等の鳥類が採餌場等として利用し、ツルヨシが繁茂する水際には、モクズガニ、スジエビ等の底生動物が生息している。

河岸にはタチヤナギ等の河畔林が点在し、サギ類の繁殖場や休息場となっている。



牛津川中流部の多様な水辺環境



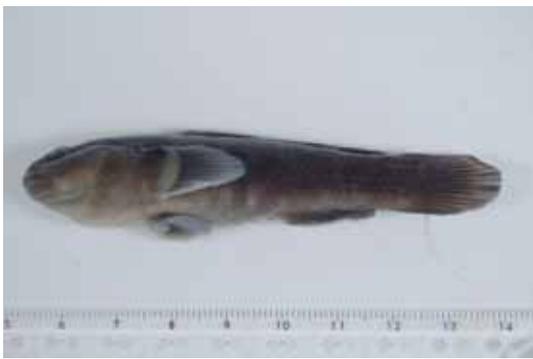
牛津川中流部の礫河原とツルヨシ群落



ツルヨシ群落



タチヤナギ群集（低木林）



ヌマチチブ（スズキ目ハゼ亜目ハゼ科）



モクスガニ（エビ目カニ下目イワガニ科）



スジエビ（エビ目テナガエビ科）



イソシギ（チドリ目シギ科）

(6) 牛津川下流部【古賀橋下流 12k200～合流点 0k000】

牛津川下流部は、低平な白石平野を蛇行しながら緩やかに流下し、沿川にはクレーク網が広がっている。地質は、流出土砂と有明海の潮汐により運搬されたガタを主とした沖積層からなる軟弱地盤である。

河道内では、我が国最大の干満差を有する有明海の影響を受け、六角川への合流点から約 12km に及ぶ長い汽水域を有し、干潮時には泥干潟が出現する。川幅は 80～200m 程度である。河床勾配は 1/2,600～1/5,600 程度と緩やかで、河床は有明海特有のガタ土～細砂で構成されている。セグメントは 3 である。

汽水域には、エツ、ムツゴロウ、ワラスボ等有明海特有の魚類と、ギンブナ、モツゴ等の淡水魚が混在して生息している。干潟は潮汐の影響により干出と水没を定期的に繰り返す場所であり、表面には微小藻類が多いなど干潟の泥には微生物が多数生息しており、生物生産性の高い環境となっている。このような干潟には、付着藻類を餌とするハラゲクレチゴガニ等の甲殻類、ムツゴロウ、ワラスボ等の魚類が生息している。

干潟背後には帯状にヨシ原が形成され、牛津川下流部を特徴づける河川景観を呈しており、オオヨシキリの繁殖場、カヤネズミの生息場等となっている。

一部にはまとまった河畔林が残されており、鳥類の採餌場、休息場、ねぐらとなっている。



牛津川下流部の干潟とヨシ原



ヨシ群落



オギ群落



エツ (ニシン目カタクチイワシ科)



ハラグレチゴガニ (エビ目スナガニ科)



オオヨシキリ
(スズメ目ヒタキ科ウグイス亜科)



カヤネズミ (ネズミ目ネズミ科)

2-2-2 六角川における重要な種

河川水辺の国勢調査及びその他の生物調査により六角川水系で生息・生育が確認された種を対象として、表 2-2 に示す選定基準により、学術上または希少性の観点から注目すべき生物（重要種）を選定した。その結果、魚類 21 種、底生動物 12 種、植物 19 種、鳥類 27 種、両生類・爬虫類・哺乳類 5 種、陸上昆虫類 4 種の合計 88 種が重要種として選定された。

表 2-2 重要種選定基準

区分	選定	文献名	所管管理者	年度	内容	選定対象 <>内略号
法律・条例	1	絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律	環境庁	1992	絶滅のおそれのある野生動植物を指定し、保護、譲渡、輸出入等を規制	国内希少野生動物種<国内> (対象:植物、魚類、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、昆虫類)
	2	文化財保護法	文化庁	1950	学術上価値の高い動植物等のうち重要なものを天然記念物に指定	国指定天然記念物<天然> 国指定特別天然記念物<特天>
環境省版レッドリスト	3	【鳥類、爬虫類、両生類、その他無脊椎動物】 環境省RL2006 : 報道発表資料「鳥類、爬虫類、両生類及びその他の無脊椎動物のレッドリスト見直しについて(環境省, 2006年12月)」	環境省	2006	環境庁のレッドリストの内容を再評価したもの ・レッドリストについては 2006年(両生類・爬虫類、鳥類、クモ形類・甲殻類等)第2次見直し 2007年(哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、陸産・淡水産貝類、植物)第2次見直し	絶滅<EX>、野生絶滅<EW>、絶滅危惧 類<CR+EN> 絶滅危惧 A類<CR> 絶滅危惧 B類<EN> 絶滅危惧 類<VU> 準絶滅危惧<NT> 情報不足<DD> 絶滅のおそれがある地域個体群<LP>
		【哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物】 環境省RL2007 : 報道発表資料「哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物及び植物IIのレッドリストの見直しについて(環境省, 2007年8月)」	環境省	2007		
佐賀県版レッドリスト	4	佐賀県レッドリスト	佐賀県	2003	種子植物、シダ植物、菌類、地衣類、鳥類、昆虫・クモ類、哺乳類、両生類・爬虫類、淡水魚類、有明海の生物	佐賀県絶滅種<絶滅> 佐賀県絶滅危惧 類種< 類> 佐賀県絶滅危惧 類種< 類> 佐賀県準絶滅危惧種<準絶> 佐賀県情報不足種<不足> 佐賀県絶滅の恐れのある地域個体群<地域>

表 2-3 (1)

六角川の重要種一覧 (1/3)

生物	No.	科名	種名	特定種の選定基準 1				確認地点(河川区分) 2								
								六角川			牛津川					
				1	2	3	4									
魚類	1	カタクチイワシ科	エツ			VU	準絶									
	2	ウナギ科	ウナギ			DD										
	3	コイ科	ゲンゴロウブナ			EN										
	4		ヤリタナゴ			NT										
	5		アブラボテ			NT										
	6		ニッポンバラタナゴ			CR	類									
	7		カゼトゲタナゴ			EN	類									
	8		カワバタモロコ			EN	類									
	9		ハス			VU										
	10		ツチフキ			VU										
	11		ドジョウ科	ドジョウ				地域								
	12			ヤマトシマドジョウ			VU									
	13	メダカ科	メダカ			VU	準絶									
	14	サヨリ科	クルマサヨリ			NT	類									
	15	カジカ科	ヤマノカミ			EN	類									
	16	スズキ科	スズキ			LP	準絶									
	17	ハゼ科	ムツゴロウ			EN	準絶									
	18		トビハゼ			NT	類									
	19		ワラスボ			VU	準絶									
	20		ハゼクチ			VU	準絶									
	21		ショウキハゼ			NT	類									
底生動物	1	タニシ科	マルタニシ			NT										
	2		オオタニシ			NT										
	3	ミズゴマツボ科	ミズゴマツボ			NT	不足									
	4	モノアラガイ科	モノアラガイ			NT										
	5	シジミ科	マシジミ			NT										
	6	ヒラマキガイ科 (+インドヒラマキガイ科)	クルマヒラマキガイ (レンズヒラマキガイ)			VU										
	7	イシガイ科	トンガリササノハガイ			NT										
	8	スナガニ科	アリアケガニ				類									
	9	クルマエビ科	シバエビ				準絶									
	10	スナガニ科	ハラグクレチゴガニ			NT	準絶									
	11		シオマネキ			VU	類									
	12	コオイムシ科	コオイムシ			NT										

1) 特定種選定基準

- 1: 種の保存法
- 2: 文化財保護法
- 3: 環境省レッドリスト
- 4: 佐賀県レッドリスト

国内: 国内希少野生動植物種

天然: 国指定天然記念物, 特天: 国指定特別天然記念物

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 A類, EN: 絶滅危惧 B類, VU: 絶滅危惧 類

NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足, LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

絶滅: 佐賀県絶滅種, 類: 佐賀県絶滅危惧 類種, 類: 佐賀県絶滅危惧 類種

準絶: 佐賀県準絶滅危惧種, 不足: 佐賀県情報不足種, 地域: 佐賀県絶滅の恐れのある地域個体群

2) 確認地点(河川区分)

: 六角川河口域 (0.0k ~ 4.65k)	感潮区間(汽水域)	
: 六角川下流部 (4.65k ~ 29.0k)	感潮区間(汽水域)	
: 六角川中流部 (29.0k ~)	順流区間(淡水域)	
: 牛津川下流部 (0.0k ~ 12.2k)	感潮区間(汽水域)	
: 牛津川中流部 (12.2k ~ 19.6k)	順流区間(淡水域)	
: 牛津川上流部 (19.6k ~)	順流区間(淡水域)	

表 2-3 (2)

六角川の重要種一覧 (2/3)

生物	No.	科名	種名	特定種の選定基準 1				確認地点(河川区分) 2							
								六角川			牛津川				
				1	2	3	4								
植物	1	ヤナギ科	イヌコリヤナギ				不足								
	2	タデ科	コギシギシ			VU									
	3	アカザ科	シチメンソウ			VU	類								
	4		ヒロハマツナ			VU	類								
	5	アブラナ科	イヌナズナ				類								
	6	ユキノシタ科	タコノアシ				類								
	7	クマツヅラ科	コムラサキ				準絶								
	8	シソ科	ミゾコウジュ			NT	準絶								
	9	ゴマノハグサ科	オオアブノメ			VU	類								
	10		イヌノフグリ			VU	準絶								
	11		カワヂシャ			NT									
	12	キク科	フクド			NT									
	13		ウラギク			VU									
	14		ホソバオグルマ			VU	類								
	15		カワラニガナ			NT									
	16		オナモミ			VU									
	17	トチカガミ科	トチカガミ			NT									
	18	アヤメ科	アヤメ				絶滅								
	19	カヤツリグサ科	ウキヤガラ				準絶								

1) 特定種選定基準

- 1: 種の保存法
2: 文化財保護法
3: 環境省レッドリスト
4: 佐賀県レッドリスト

国内: 国内希少野生動植物種

天然: 国指定天然記念物, 特天: 国指定特別天然記念物

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 A類, EN: 絶滅危惧 B類, VU: 絶滅危惧 類

NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足, LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

絶滅: 佐賀県絶滅種, 類: 佐賀県絶滅危惧 類種, 類: 佐賀県絶滅危惧 類種

準絶: 佐賀県準絶滅危惧種, 不足: 佐賀県情報不足種, 地域: 佐賀県絶滅の恐れのある地域個体群

2) 確認地点(河川区分)

: 六角川河口域 (0.0k ~ 4.65k)	感潮区間(汽水域)	
: 六角川下流部 (4.65k ~ 29.0k)	感潮区間(汽水域)	
: 六角川中流部 (29.0k ~)	順流区間(淡水域)	
: 牛津川下流部 (0.0k ~ 12.2k)	感潮区間(汽水域)	
: 牛津川中流部 (12.2k ~ 19.6k)	順流区間(淡水域)	
: 牛津川上流部 (19.6k ~)	順流区間(淡水域)	

表 2-3 (3)

六角川の重要種一覧 (3/3)

生物	No.	科名	種名	特定種の選定基準 1				確認地点(河川区分) 2					
								六角川		牛津川			
				1	2	3	4						
鳥類	1	サギ科	ササゴイ				類						
	2		チュウサギ			NT							
	3	トキ科	クロツラヘラサギ			CR	類						
	4	カモ科	ツクシガモ			EN							
	5		オシドリ			DD	準絶						
	6		トモエガモ			VU	準絶						
	7	タカ科	ミサゴ			NT	類						
	8		ハチクマ			NT	類						
	9		オオタカ	国内		NT	類						
	10		ハイタカ			NT	準絶						
	11		チュウヒ			EN	類						
	12	ハヤブサ科	ハヤブサ	国内		VU	類						
	13	クイナ科	クイナ				不足						
	14		ヒクイナ			VU							
	15	タマシギ科	タマシギ				不足						
	16	シギ科	アカアシシギ			VU	類						
	17		ダイシャクシギ				類						
	18		ホウロクシギ			VU	類						
	19		オオジシギ			NT							
	20	ツバメチドリ科	ツバメチドリ			VU	類						
	21	カモメ科	ズグロカモメ			VU	類						
	22		コアジサシ			VU	類						
	23	フクロウ科	フクロウ				準絶						
	24	ヨタカ科	ヨタカ			VU	類						
	25	カワセミ科	ヤマセミ				類						
	26	ホオジロ科	ノジコ			NT							
	27	カラス科	カササギ		天然								
両・爬・哺	1	アカガエル科	トノサマガエル				不足						
	2	イシガメ科	イシガメ				不足						
	3	スッポン科	スッポン			DD	不足						
	4	ネズミ科	カヤネズミ				準絶						
	5	イタチ科	チョウセンイタチ			NT							
陸上昆虫類等	1	ヤンマ科	サラサヤンマ				準絶						
	2	ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ				準絶						
	3	シロチョウ科	ツマグロキチョウ			VU							
	4	タテハチョウ科	ヒオドシチョウ				準絶						

1) 特定種選定基準

1: 種の保存法

国内: 国内希少野生動植物種

2: 文化財保護法

天然: 国指定天然記念物, 特天: 国指定特別天然記念物

3: 環境省レッドリスト

EX: 絶滅, EW: 野生絶滅, CR: 絶滅危惧 A類, EN: 絶滅危惧 B類, VU: 絶滅危惧 類

4: 佐賀県レッドリスト

NT: 準絶滅危惧, DD: 情報不足, LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

絶滅: 佐賀県絶滅種, 類: 佐賀県絶滅危惧 類種, 類: 佐賀県絶滅危惧 類種

準絶: 佐賀県準絶滅危惧種, 不足: 佐賀県情報不足種, 地域: 佐賀県絶滅の恐れのある地域個体群

2) 確認地点(河川区分)

: 六角川河口域 (0.0k ~ 4.65k)	感潮区間(汽水域)	
: 六角川下流部 (4.65k ~ 29.0k)	感潮区間(汽水域)	
: 六角川中流部 (29.0k ~)	順流区間(淡水域)	
: 牛津川下流部 (0.0k ~ 12.2k)	感潮区間(汽水域)	
: 牛津川中流部 (12.2k ~ 19.6k)	順流区間(淡水域)	
: 牛津川上流部 (19.6k ~)	順流区間(淡水域)	

2 - 3 特徴的な河川景観及び文化財等

(1) 河川景観

六角川河口域は、有明海特有の潮汐の影響を受け、干潮時には広大な河口干潟が出現し、有明海湾奥部の独特な自然景観を呈している。

六角川及び牛津川下流部は、ゆったりとした蛇行河道、長く続くガタ土、それに沿って広がるヨシ原、茶色に濁った水の色、満ち潮時に勢いよく上流に向かって遡る流れが、六角川の特徴をなし、他の河川では観られない独特な河川景観を呈している。

六角川中・上流部は、山間の狭い里地を流れ、周辺の農耕地や山林と調和した穏やかな河川景観を呈している。

牛津川中・上流部は、瀬・淵、河原、河畔林など多様な河川景観を呈している。

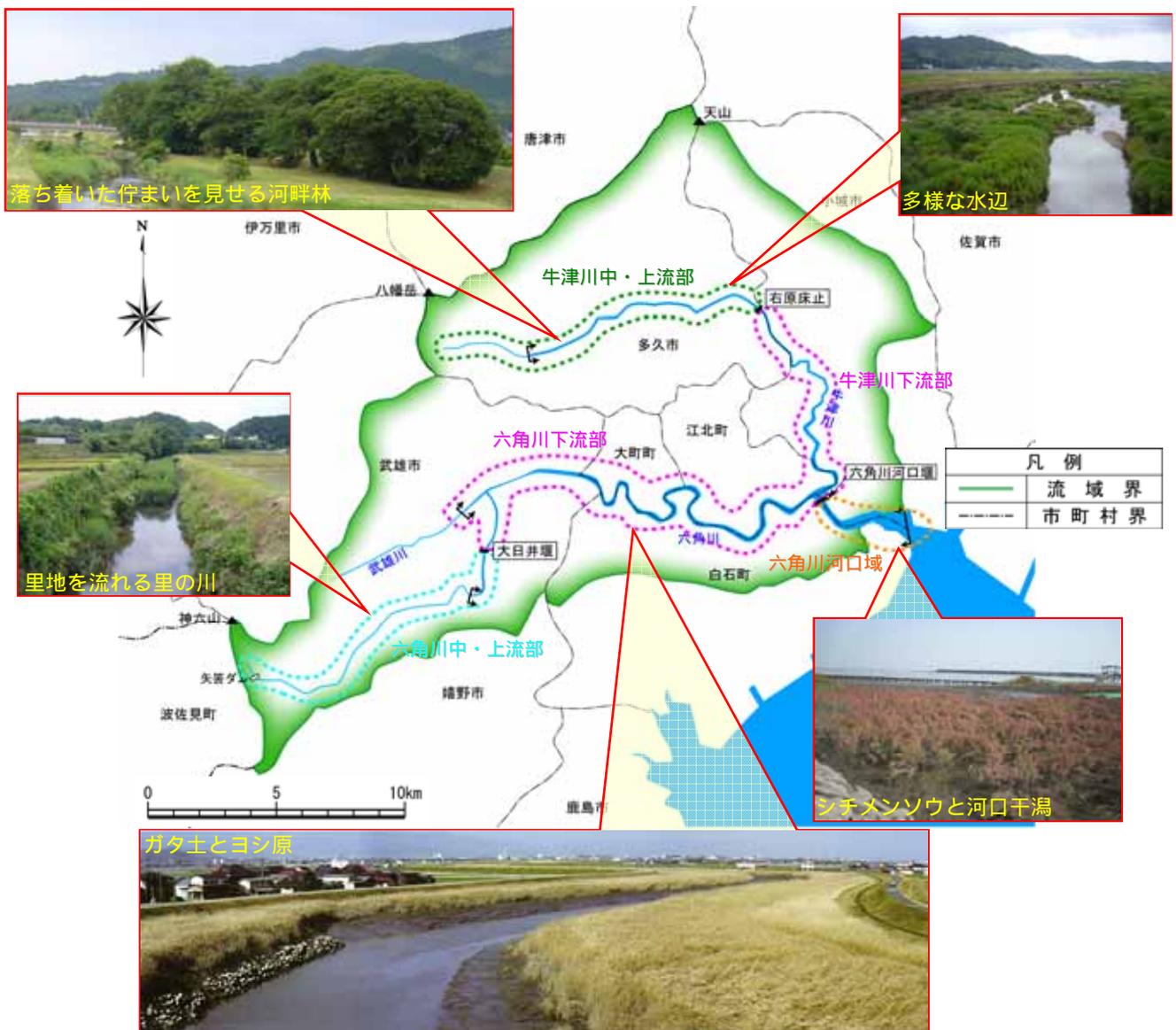


図 2-3 六角川の特徴的な河川景観

(2) 文化財及び史跡

六角川流域内には歴史的に重要な指定文化財及び史跡・天然記念物があり、その代表的なものとしては、孔子の祀られる多久聖廟、武雄温泉の楼門、武雄の荒踊りや大聖寺のまき等があげられる。



図 2-4 六角川流域の主な文化財・史跡・名称・天然記念物

表 2-4

名勝及び天然記念物

種別		指定年月日	名称	所在地
国指定	天然記念物	大正12.3.7	カササギ生息地	県内
	天然記念物	昭和46.6.23	相浦の球状閃緑岩	多久市北多久町大字多久原 飯盛山
県指定	天然記念物	昭和53.3.20	大聖寺のまき	武雄市北方町大字大崎 大聖寺

表 2-5

史跡・遺跡

種別		指定年月日	名称	所在地
国指定	史跡	大正10.3.3	多久聖廟	多久市多久町東の原1642
	史跡	昭和41.6.21	おつぼ山神籠石	武雄市橘町大字大日 おつぼ山
	史跡	昭和48.6.2	土生遺跡	小城市三日月町久米2488
県指定	史跡	昭和46.6.23	寺浦廃寺塔跡ならびに礎石	小城市小城町大字畑田字寺浦
	史跡	昭和52.3.11	保四郎窯跡	多久市多久町字保四郎
	史跡	昭和54.3.31	潮見古墳	武雄市橘町大字永島
	史跡	昭和55.3.21	矢ノ浦古墳	武雄市武雄町大字永島
	史跡	平成2.3.30	玉島古墳	武雄市橘町大字大日字玉島
	史跡	平成4.5.27	茶笥塚古墳	小城市小城町
	史跡	平成6.3.31	多蛇古古墳(1号墳)	武雄市朝日町大字甘久字栗原
	史跡	平成7.5.26	妻山古墳群4号墳	杵島郡白石町大字馬洗字道祖谷
史跡	平成10.5.11	道祖谷古墳	杵島郡白石町大字馬洗字道祖谷	

表 2-6

名勝及び天然記念物以外の文化財

種別	指定年月日	名称	所在地	
有形文化財	国指定	建造物	昭和25.8.29 多久聖廟	多久市多久町東の原1642
		建造物	昭和49.2.5 川打家住宅	多久市西多久町大字板屋
		建造物	昭和49.2.5 土井家住宅	杵島郡大町町大字大町
		生産用具	昭和63.3.17 肥前佐賀の酒造用具	多久市多久町大字別府4650
		彫刻	昭和25.8.29 木造薬師如来坐像	小城市牛津町上砥川(常福寺)
		彫刻	昭和25.8.29 木造帝釈天立像	小城市牛津町上砥川(常福寺)
		彫刻	昭和25.8.29 木造四天王立像	武雄市武雄町富岡(広福護国禅寺)
		建造物	平成17.7.22 武雄温泉新館及び楼門	武雄市武雄町大字武雄
	県指定	建造物	昭和33.1.23 若宮八幡宮神殿	多久市多久町字宮城 若宮八幡宮
		建造物	昭和39.5.23 石造肥前烏居 慶長二年の銘あり	小城市小城町池の上 牛尾神社
		建造物	昭和40.7.23 星巖寺楼門	小城市小城町畑田 星巖寺
		建造物	平成19.3.14 星巖寺御霊屋	小城市小城町大字畑田3122(旧星巖寺境内)
		彫刻	昭和34.3.20 木造持国天立像・木造多聞天立像	小城市小城町松尾 円通寺
		彫刻	昭和34.3.20 銅造薬師如来立像	武雄市北方町芦原 歡喜寺
		工芸品	平成10.5.11 立葵蒔絵螺鈿箏	多久市多久町(多久市郷土資料館)
		絵画	平成3.3.30 絹本着色閑室元倍像	小城市小城町池上門前 三岳寺
		彫刻	平成6.3.31 木造薬師如来坐像・木造大日如来坐像・木造十一面観音菩薩坐像	小城市小城町池上門前 三岳寺
		彫刻	平成10.5.11 木造千手観音菩薩立像	小城市小城町畑田 建保寺
		彫刻	平成14.3.6 木造(日光菩薩立像、月光菩薩立像)	小城市小城町158番地4 小城市立歴史資料館
		歴史資料	昭和53.3.20 多久家資料及び後藤家文書	多久市多久町 多久市郷土資料館
		古文書	昭和28.11.3 源頼朝加判平盛時奉書	武雄市大字武雄5538-1(武雄市文化会館)
		古文書	平成9.5.9 鶴田家文書(因幡守勝系)	武雄市図書館・歴史資料館(武雄市武雄町大字武雄5304-1)
		考古資料	昭和54.3.31 龍王崎古墳群出土遺物	白石町教育委員会
		考古資料	昭和54.3.31 潮見古墳出土遺物	武雄市武雄町大字武雄(武雄市文化会館)
		考古資料	昭和55.3.21 矢ノ浦古墳出土変形獣帯鏡	武雄市武雄町大字武雄(武雄市文化会館)
		考古資料	昭和55.3.21 矢ノ浦経塚出土遺物	武雄市武雄町大字武雄(武雄市文化会館)
		考古資料	昭和57.3.19 茂手遺跡出土有鉤釧形銅製品	武雄市武雄町大字武雄(武雄市文化会館)
考古資料		昭和62.3.16 布施ヶ里遺跡二二号土壌墓出土銅釧	小城市小城町(小城市教育委員会)	
考古資料	平成1.3.27 みやこ遺跡出土木製鞍前輪	武雄市武雄町大字武雄(武雄市教育委員会)		
考古資料	平成3.3.30 釈迦寺遺跡出土遺物	武雄市武雄町大字武雄(武雄市教育委員会)		
考古資料	平成10.5.11 生立ヶ里遺跡出土木製品	小城市牛津町柿樋瀬(小城市教育委員会)		
考古資料	平成11.5.10 土生遺跡群出土青銅器鋳型	小城市小城町 小城市立歴史資料館		
考古資料	平成15.3.10 牟田辺遺跡甕棺墓出土遺物	多久市多久町1975 多久市郷土資料館(多久市教育委員会)		
重要有形民俗文化財	昭和54.3.31 面浮立絵馬	武雄市武雄町大字武雄(武雄市文化会館)		
無形文化財	国指定	重要無形民俗文化財	昭和52.5.17 武雄の荒踊り	武雄市西川登町高瀬・朝日町中野・東川登町宇土手
		重要無形文化財	平成19.9.6 青磁(中島宏)	武雄市西川登町大字小田志14982
	県指定	重要無形民俗文化財	昭和55.2.22 多久聖廟釈菜	多久市北多久町東の原 多久聖廟
		重要無形文化財	平成6.3.31 陶芸染付和紙染(江口勝美)	武雄市東川登町永野 江口勝美

(3) 観光・景勝地

六角川流域内の牛津川源流部は、八幡岳県立自然公園、天山県立自然公園に指定され、豊かな自然環境を有している。八幡岳、天山の山頂から白石平野を望む眺めは絶景で、多くの人々が登山、ハイキング、キャンプに訪れている。

中・上流部には、武雄市内の御船山楽園、御船ヶ丘梅林、武雄温泉替洲園、多久市内の多久聖廟、西溪公園、鬼の鼻山憩いの森等が点在し、四季を通じて多くの観光客が訪れている。

下流部には武雄市の高野寺、白石町の杵島歌垣公園、小城市の牛尾梅林、河口部にはムツゴロウ公園等が点在し、市民の憩いの場となっている。ムツゴロウ公園に隣接した干潟体験場では、ムツゴロウや秋に紅葉するシチメンソウを観察することができ、また直接干潟に入ることができるなど、有明海湾奥の独特な自然を見学、体験する場として多くの人々が訪れている。



図 2-5 六角川流域の主な観光地・景勝地

2 - 4 自然公園等の指定状況

2 - 4 - 1 六角川流域内の自然公園

六角川流域内では、牛津川及びその支川の源流部が八幡岳県立自然公園及び天山県立自然公園に指定されている。

【八幡岳県立自然公園】

八幡岳県立自然公園は、昭和 45 年 10 月 1 日に指定され、公園面積 860ha を有し、年間約 1 万 4 千人（平成 18 年）がハイキング、キャンプ場等に利用している。

標高 764m を有する八幡岳東方に八幡大菩薩の石銅が祀られて、山頂には松浦砥石で有名な砥石の切り出し場がある。また、草原にはヤマツツジ、山腹にはケヤキ、イロハモミジ等の自然林が点在する。また、船山（女山）山麓にはキャンプ場が整備され、八幡岳山頂まで車で行くことができることから身近な行楽スポットとなっている。

【天山県立自然公園】

天山県立自然公園は、昭和 45 年 10 月 1 日に指定され、公園面積 4,930ha を有し、年間約 42 万人（平成 18 年）が登山、キャンプ等に利用している。

小城市北方にそびえる標高 1,046m の天山は、なだらかな稜線を有し、山頂の高原一帯は美しい草原で九州自然歩道のコースとなっており、登山、ハイキングのスポットとして親しまれている。

表 2-7 六角川流域内の自然公園指定状況

公園名	指定年月日	関係市町村	公園面積 (ha)	年間利用者数 (H18年)千人	利用形式
天山県立自然公園	S45.10.1	佐賀市、唐津市 多久市、小城市	4,930	424	登山 キャンプ
八幡岳県立自然公園	S45.10.1	唐津市、多久市 伊万里市、武雄市	860	14	ハイキング キャンプ

出典) 佐賀県ホームページ



図 2-6 六角川流域の自然公園

2-4-2 六角川流域内の鳥獣保護法設置区域

六角川流域では、鳥獣保護法により銃猟禁止区域、保護区等が以下のとおり設定されている。

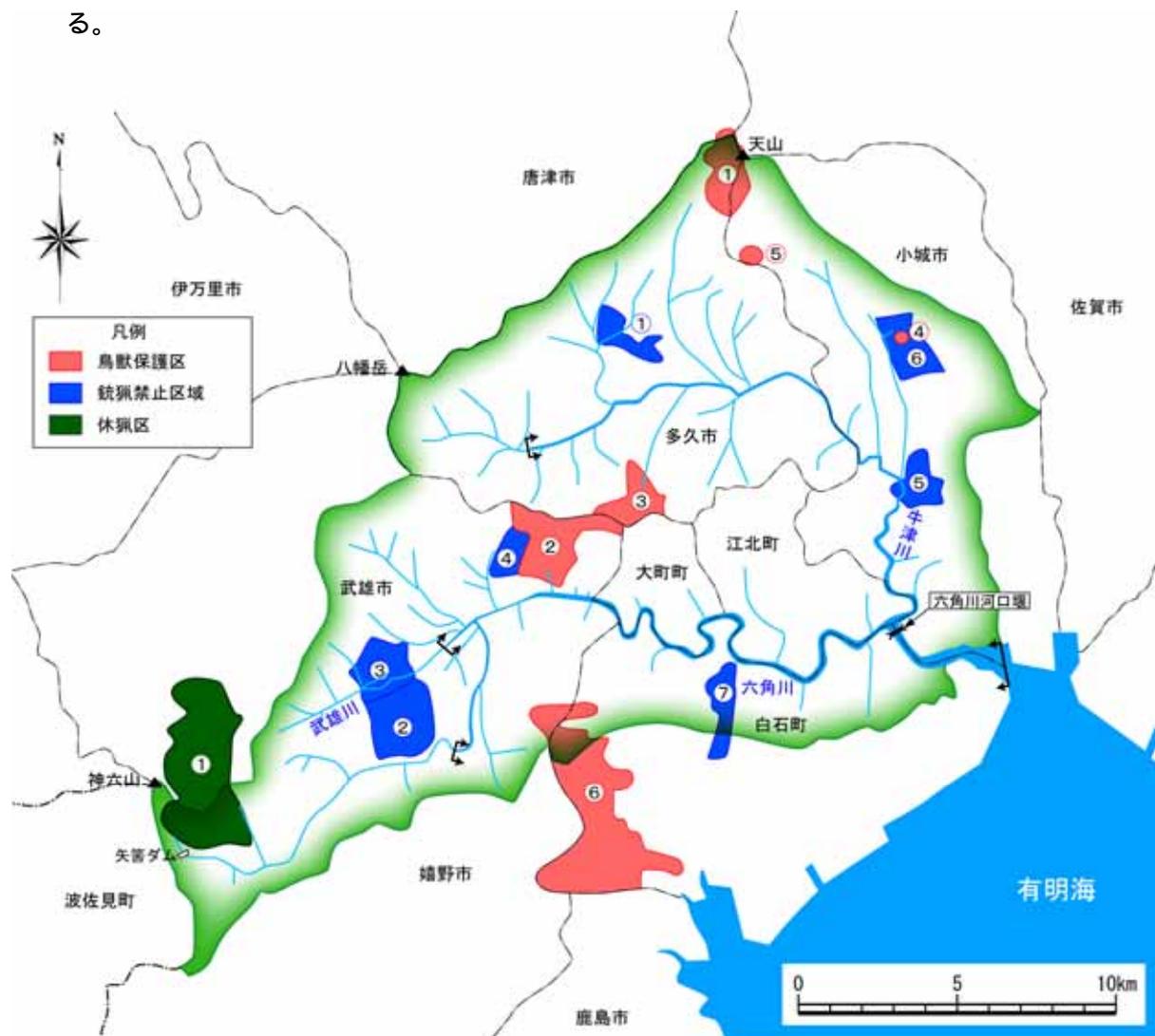


図 2-7 六角川流域の鳥獣保護区位置図

表 2-8 鳥獣保護区指定状況

区分	No.	名称	主たる所在地
鳥獣保護区	1	天山鳥獣保護区	多久市
	2	高野鳥獣保護区	武雄市
	3	鬼の鼻山鳥獣保護区	多久市
	4	桜岡鳥獣保護区	小城市
	5	八丁ダム鳥獣保護区	小城市
	6	水堂鳥獣保護区	白石町
銃猟禁止区域	1	多久銃猟禁止区域	多久市
	2	保養村銃猟禁止区域	武雄市
	3	武雄銃猟禁止区域	武雄市
	4	高野銃猟禁止区域	武雄市
	5	小城銃猟禁止区域	小城市
	6	牛津銃猟禁止区域	小城市
	7	白石銃猟禁止区域	白石町
休猟区		犬走休猟区	武雄市

2-4-3 その他

「ムツゴロウ・シオマネキ保護区」

佐賀県では、乱獲や環境の変化により激減したムツゴロウ及びシオマネキを保護するため、六角川河口から六角川河口堰までの約4.1kmの河川区域を、「ムツゴロウ・シオマネキ保護区」に指定し、採捕を禁止している。

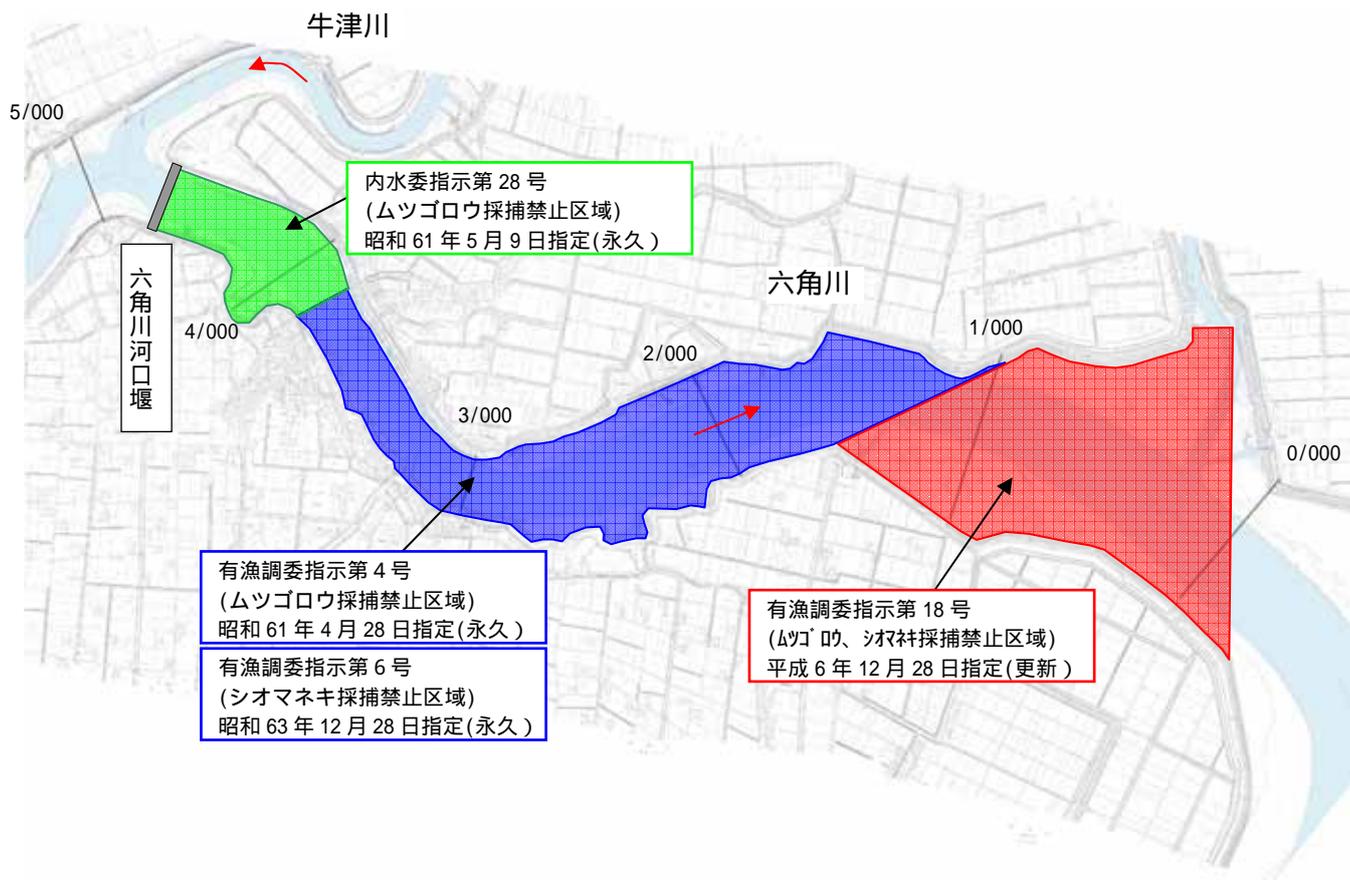


図 2-8 ムツゴロウ・シオマネキ保護区指定区域図